

<私たちはなぜ「これからプラン2008 - めざせ2018 -」をつくったのか>

私たちは、5年間の活動を通し、多くの地域の方々に支えられてきたこと、そして一緒に活動することの喜びと大切さを強く感じています。また、地域の“まちづくり”に文化が本当に大切で、大きな力をもつことをより深く認識することができました。そこで、10年後の活動のあり方を皆で協議し、「これからプラン2008 - めざせ2018 -」としてまとめました。

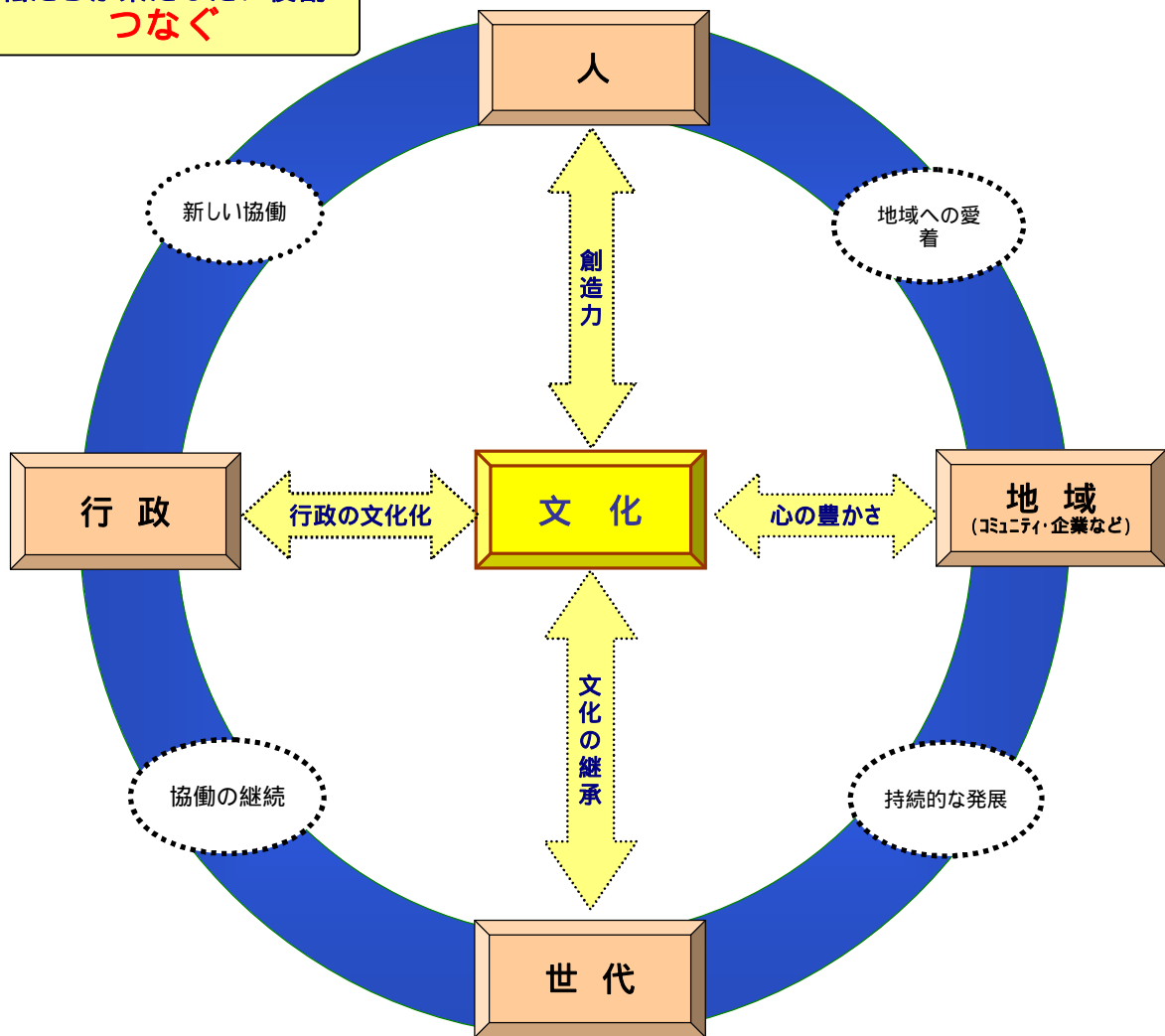
まず、活動する私たちの喜びは何なのか、次に私たちはどんな役割を果たしたいのか、そのためにはどんな地域の姿を目指したいのかとしてまとめました。さらに、5年後・10年後の私たちの活動をイメージしながら、そのためにどのような方策が必要なのかを考え、基本計画を立てました。

ただ、5年後や10年後の姿を具体的に描くことは難しく、多くのものが抽象的なものとなってしまいました。今後は、今描いている姿と目標をより具体的なものへと修正していく必要があると考えています。

今後も多くの人たちの喜びと共に私たちの喜びがあるような活動を進めていくために、このプランを役立てていきたいと思っています。

**私たちのよろこび**  
みんなで楽しく  
たくさんの人に喜んでもらえる企画を創り出す

**私たちが果たしたい役割**  
つなぐ



**私たちが目指す地域の姿**

市民の力でまちづくり

何を	何に「つなぐ」	成果として考えられるもの	考えられる方策	中期的展望(5年後)	長期的展望(10年後)
文化と	人	創造力	・アウトリーチ より多くの住民に文化的な喜びを伝える ・住民アンケートの継続的な実施 興味・関心の調査と文化的な意欲の喚起 ・ワークショップの積極的な実施 創造的な活動に参加することで自分の可能性を広げ、より積極的な関わりを持つとする	・各事業に住民がボランティアとして参加している。 ・住民から企画を募集した事業が実施されている。	多くの住民が文化的な趣味を持ち主体的に活動している。 一つあるいは二つの事業が、企画の段階から住民の参加で実施されている。
	地域	心の豊かさ	・住民アンケートの継続的な実施 興味・関心の調査と文化的な意欲の喚起 ・地域で活動する各種団体との連携 ・アウトリーチ より多くの住民に文化的な喜びを伝える。 ・サイエンストークの継続・発展	・住民から企画を募集した事業が、住民と協働で実施されている。 ・武豊オリジナルの文化が育成されている。 ・町外でのアウトリーチ活動を年1回、それぞれの地域の団体と協働で実施している。	ひろい地域の人たちが文化活動の楽しさにふれ、互いの文化を尊重しながらそれぞれのまちづくりに勤しんでいる。 鑑賞事業の広報を広範囲で行い、町外からの来場者が半数を占める。
	世代	文化の継承	・ファミリーコンサートの実施 ・アウトリーチ 老人福祉施設など ・NPOたけとよで若い世代が参加できる事業を企画・実施する。 ・子ども向け事業を子育て世代の保護者と共同企画する。	・40代、30代、20代のNPOたけとよ社員がいて事業の実施に取り組んでいる。	いろいろな文化活動に世代を超えて参加している。 幅広い世代がNPOたけとよのに参加し、活動を継承している。
	行政	行政の文化化	・役場ロビーでのコンサート ・継続的なまちづくりセミナーの実施 ・行政サイドのアンケートの実施 文化についての関心・NPOたけとよの問題点と今後の課題について	・行政関係者のNPOたけとよへの加入者が増えている。 ・文化創造プランの改訂に参画している。	まちづくりに積極的に関わる市民が増え、行政と協働のまちづくりがすすんでいる。 文化によるまちづくりについて行政と協働で報告会を開催している。
人と	地域	地域への愛着	・若い人の活動を支援する事業の企画と実施 ・サイエンストークの継続・発展 ・武豊の歴史を掘り起こす展示 ・いろいろなところで活動する人たち・グループの紹介	・地域で活動する若い世代のグループとの協力が進む。 ・若者を中心としたアウトリーチ活動を共同実施する。	まちづくりに積極的に関わる市民が増え、多くの町民が自分の町に誇りを持ち、他の地域へ良さを語っている。 若い世代が中心となった文化的行事の立案と実施に積極的に関わっている。
地域と	世代	持続的な発展	・世代間の交流を図るワークショップなどの実施 ・若いアーティストとの交流会やワークショップ ・子ども向け事業企画を子育て世代の保護者と共同立案する。	・退職者を中心としたグ・ウィンチスタッフで子ども向けのワークショップをたくさん開催する。 ・子どものための事業企画を地域の子育て世代の保護者と相談する場をもつ。	多くの若者が地域の行事や問題の解決に関わっている。 子ども向けの事業企画を保護者と相談し、多くの高齢者のボランティアを交え実施する場を提供している。
世代と	行政	協働の継続	・若い世代の取り組みを支援する。 ・若手行政職員と地域の若者が共同で実施する企画の実施	・「こんな町になったらいいプラン」コンテストを実施する。	若い世代が自分たちの声を発表し、自分たちでまちづくりに取り組んでいる。 ・行政との協働でまちづくりセミナーを年1回実施している。 ・「こんな町になったらいいプラン」コンテストの審査を行政と協働で行っている。
行政と	人	新しい協働	・市民からの提案をまとめて発表する場を提供する。(「市民発わがまちプラン」の募集と発表)	・新たなまちづくりNPOの設立に協力している。 ・行政との「まちづくり協働フォーラム」を開催している。	地域の住民が、「まちづくり」の意見を積極的に発表し、助け合いながら事業を進めている。 「市民発わがまちプラン」の募集と発表、「まちづくり協働フォーラム」を継続して行い、他の地域への紹介も行っている。
市民の力でまちづくり	我がまち意識の高まり (アイデンティティの強化)	・子どもたちのニーズに応える企画を市民からの事業サポート寄金も加えて実施する。 ・中高年者のニーズに応える企画を市民からの事業サポート寄金も加えて実施する。 ・事業サポート寄金に参加した企業等を知らせる。	・10周年記念イベントに市民の事業サポート寄金が活用されている。 ・市民と協働して記念イベントを実施している。	行政からの受託金の1/4くらいの市民の事業サポート寄金が寄せられている。 15周年記念イベントを広い地域の市民と協働して開催している。	

取り組みの中心と考えられるもの

・「文化と」つなぐ部分を重点的に取り組む

重点的な取り組みの方策

- ・アウトリーチ活動
- ・若い世代への支援企画の継続的な実施
- ・ちよいぼうを中心として社員とボランティアの増加
- ・アンケートを中心としたリサーチ活動
- ・各種団体との協働活動
- ・まちづくりセミナーの継続的な実施
- ・事業サポート寄金の取り組み